

別記様式第6

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	光 森 幸 子
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目(Title of Dissertation) アリス・ウォーカーの長編小説における暴力への対応			
論文審査担当者(The Dissertation Committee)			
主 査(Name of the Committee Chair)		教授	新田 玲子
審 査 委 員(Name of the Committee Member)		教授	吉中 孝志
審 査 委 員(Name of the Committee Member)		教授	今林 修
審 査 委 員(Name of the Committee Member)		准教授	大地 真介
審 査 委 員(Name of the Committee Member)		明治学院大学 教授	森 あおい
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、アフリカ系アメリカ人の尊厳や歴史を奪ってきた白人支配社会に対し、ペンによる抵抗を続けてきたアリス・ウォーカーの長編作品を論じたものである。これまでの批評では、彼女の作品において、なかでも初期の作品で、黒人家庭内暴力が目を引きするために、リアリズム作家のように扱われ、黒人登場人物を白人至上主義の犠牲者や分離主義者と見なす、二項対立的解釈が多い。しかし光森氏は、ウォーカーが主張する「ウーマニスト」が二項対立的価値観を超える視点を取り、公民権運動の「非暴力」の思想を深めた未来志向の生き方を発展させている点に着目し、この新たな視点を念頭にウォーカーの文学的挑戦を検証し直している。</p> <p>「まえがき」ではこれまでの先行研究が丁寧に説明され、本論の位置付けと研究方法が提示される。この書き方は各論にも引き継がれ、論の冒頭で必ず先行研究を吟味し、それらを踏まえた上での光森氏の立ち位置が明確に述べられている。</p> <p>第1章では、光森氏は『グレンジ・コーブランドの第三の人生』と『メリディアン』の二作品における「新しい奴隷制度」という暴力に注目する。そして、両テキストの連続性に初めて注目し、四段階の考察を通して、ウォーカーが「一つの命」に向けた闘いを行っている点を検証する。</p> <p>第2章では、『カラーパープル』と『父のほほえみに照らされて』における、黒人男性による性差別的「家庭内暴力」が扱われる。ここでも、光森氏は両テキストの連続性を念頭においた考察を初めて行い、女性の解放だけでなく男性の解放を含む、ウォーカーが目指す黒人男女の自己解放について論じる。</p> <p>第3章では、精神的・肉体的に深いトラウマをもたらすFGM（女性性器切除）を題材とした『喜びの秘密をもつこと』を多角的に分析し、これまで否定的解釈が多かったこの作品を、ウォーカーのFGM廃絶へ向けた強い姿勢が貫かれた作品として評価し直す。</p> <p>第4章では、『わが愛しきものの神殿』と『今こそ心を開くとき』における「帝国主義・植民地主義」に含まれる暴力性に注目し、ここでも両作品の連続性を重視して、両作品における人物像の変化を丁寧に追いながら、「帝国主義・植民地主義」に隠された暴力性を厳しく追求するウォーカーの姿勢と、そこから脱却するために彼女が提示する新たな生き方を解析する。</p> <p>「あとがき」では、各章における分析内容を、ペンで闘うウォーカーの著作姿勢から捉え直し、先行研究では一面的にしか論じられてこなかった、「全てのものとの一体」というウォーカーの主張を、彼女の「ウーマニスト」の定義や「非暴力思想」と合わせて考察し直す。</p>			

このように、光森氏はウォーカーの長編小説全七編を取り上げ、そこに描かれた様々な形の暴力と、それらに対する登場人物の反応について、テキスト間のつながりや発展性に留意しながら独自の分析を進めたうえで、ウォーカーの宗教観も含めた新しい作品解釈を提示している。数カ所、注を付けるべき箇所があるものの、ウォーカー作品を新たな観点から丁寧に分析し、ウォーカー作品に対する現代的意義を提示している点は非常に高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)